

乳癌 19a 対象疾患:乳癌
(1コース目 Day1)

【0219a】HER+PTX 療法(HER:1 週毎 2mg/kg、PTX:1 週毎 80mg/m²)

※2 コース目以降投与時は、「乳癌 19 HER+PTX 療法(HER:1 週毎 4mg/kg、PTX:1 週毎 80mg/m²)」を使用してください

【投与スケジュール】 1コース=28日

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W	3W	4W	5W
トラスツズマブ	ハーセプチン	HER、Tmab	初回 4mg/kg 2回目以降 2mg/kg	↓ Day1 4mg/kg	↓ Day8 2mg/kg	↓ Day15 2mg/kg	↓ Day15 2mg/kg	↓ Day1 2mg/kg
パクリタキセル	パクリタキセル	PTX、PAC TXL	80mg/m ²	↓ Day1	↓ Day8	↓ Day15		↓ Day1

【投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
Day1, 8, 15			
内服	レスタミン錠(10mg)	5錠	①投与中内服
①	デカドロン(3.3mg)	3管 ※	15分
	ファモチジン(20mg)	1管	
	生理食塩液 50mL	1本	
②	グラニセトロンバッグ(3mg/100mL)	1本	30分
③	パクリタキセル	80mg/m ²	60分
	生理食塩液 250mL	1本	
④	ハーセプチン	4mg/kg (2mg/kg)	初回 90分※
	生理食塩液 250mL	1本	
⑤	生理食塩液 50mL	1本	ルートリンス

※ハーセプチン投与時間は、初回投与の忍容性が良好ならば、2回目以降は投与時間を30分まで短縮可

※デカドロンは過敏症状がなければ半量ずつ(最低1mgまで)減量可

<パクリタキセル>

インラインフィルター(0.22ミクロン以下)を使用すること

DEHPフリー(もしくはPVCフリー)の点滴セットを使用すること

輸液ポンプを使用する場合は、濾過網の組み込まれた輸液セットは使用しないこと

催吐性	ハーセプチン:最小度リスク パクリタキセル:軽度リスク
組織傷害性	ハーセプチン:非炎症性 パクリタキセル:壊死性
代表的副作用	ハーセプチン >10%…infusion reaction(約 40%) 1~10%…左室駆出率低下
	パクリタキセル >10%…骨髄抑制、末梢神経障害、関節痛、筋肉痛、悪心、嘔吐、脱毛、皮疹、爪の変化 <1%…アナフィラキシー、間質性肺炎

【注意事項】

(ハーセプチン)

- 初回投与は 90 分投与とし、忍容性が良好ならば、2 回目以降は 30 分に短縮可能である

(パクリタキセル)

☆パクリタキセルのアルコール量

(例)パクリタキセル 100mg 投与の場合

⇒**ビール換算で約 168mL (350mL 缶の半分くらい)**

- 過飽和状態にあるためパクリタキセルが結晶として析出する可能性があるため、0.22 ミクロン以下のメンブレンフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること
- 点滴用セット等で可塑剤として DEHP を含有しているものの使用を避けること。もしくは PVC フリーの輸液セットを使用すること
- 輸液ポンプを使用して投与する場合は、チューブ内にろ過網(面積の小さなフィルター)が組み込まれた輸液セットは使用しないこと(まれにポンプの物理的刺激により析出するパクリタキセルの結晶がろ過網を詰まらせ、ポンプの停止が起こることがあるため)
- 本剤は非水性注射液であり、輸液で希釈された薬液は表面張力が低下し、1滴の大きさが生理食塩液などに比べ小さくなるため、輸液セットあるいは輸液ポンプを用いる場合は以下の点に十分注意すること。
 - 自然落下方式で投与する場合、輸液セットに表示されている滴数で投与速度を設定すると、目標に比べ投与速度が低下するので、滴数を増加させて設定する等の調整が必要である。
 - 滴下制御型輸液ポンプを用いる場合は、流量を増加させて設定する等の調整が必要である。
- 前投薬:本剤投与による重篤な過敏症状の発現を防止するため、必ず前投薬(H1 阻害薬、H2 阻害薬、デキサメタゾン)を行うこと
- 先発品名は「タキソール注射液」です。2017 年 2 月に後発品に採用切り替え